

野専員対

平成 28 年 度

事業計画・報告書

教職員の研



学園の沿革

平成28年5月1日現在

設置者	学校法人 頭陀寺学園								
幼稚園名	幼保連携型認定こども園 ずだじこども園								
理事長	鈴木重道			園長		鈴木重道			
所在地	浜松市南区恩地町291番地								
定員		計	0歳	1歳	2歳	満3歳	年少	年中	年長
	クラス数	16	1	1	1	1	4	4	4
	定員人数	360	9	15	24	20	84	104	104
実人員 5月1日 現在	クラス数	14	1	1	1	1	3	4	3
	人数	279	2	12	17	4	79	92	73

理事長挨拶

当学園の社会的使命は、幼児の教育を通して社会の幸福と繁栄が永続するよう社会に寄与せんと研鑽努力するものである。

教育内容の充実発展、施設設備の充実、保護者の教育費の負担軽減、家庭教育の充実を運営の柱とし計画運営をしています。その為には、園を取り巻く社会環境や内部環境を把握した経営を行う必要があります。本質を見失わないように、原理原則を念頭に置き、また社会情勢に合わせ時流に適応しながら着実に歩みを進めていきます。法人の役員、教職員と保護者とともに、子供たちの幸福と健やかな成長を願い挨拶と致します。

建学の精神

「生命」と「感謝」をもって学校法人 頭陀寺学園の建学の精神とする。

当学園は子ども・子育て支援法に基づき、仏教の宗教的精神を涵養せんがために設立されたものである。

その宗教的精神とは“生きる力”と“感謝の心”である。植物は常に太陽に向かって花を咲かせる。植物の生命力のように、自らの未来を思い、確実に一步一步自ら生きていく力の根源を育てたい。

また生きることは、大いなる生命に生かされることである。花を咲かせるためには水、空気、養分と太陽が必要である。これらは全て宇宙の大いなる力から、与えられるものである。この大いなる力に気付いた時、感謝の心が生まれてくるものである。

このように自ら生きようとする生命力と、大いなる力に感謝する心を涵養することである。

学園の沿革

昭和29年	7月	頭陀寺幼稚園設置認可 園長 上原菊代
	11月	頭陀寺幼稚園開園 第1回入園式
昭和39年	3月	園長 上原菊代退任
	4月	園長 鈴木章介就任
昭和59年	3月	学校法人 頭陀寺学園設立認可 理事長 鈴木章介就任
昭和63年	3月	園長 鈴木章介退任
	4月	園長 鈴木重道就任
平成6年	12月	理事長 鈴木章介他界により理事長に鈴木重道就任
平成13年	4月	園を頭陀寺町より恩地町に移転 「ずだじ幼稚園」と名称変更
平成16年	11月	園舎西側に運動場として土地購入、拡張
平成18年	7月	園舎西側運動場への橋新設、通用門を自動ロック扉に改修
平成19年	4月	未就園児教室(ピョピョ教室開催)
	6月	西棟、北棟7教室に冷房設置
平成20年	11月	ホールガラスフィルム貼り
平成21年	11月	プランコ設置
	12月	4教室ガラス飛散フィルム貼り
平成22年	7月	8教室ガラス飛散フィルム貼り
	8月	ぞうさん滑り台設置
平成23年	6月	避難用手押車購入(2台)
	7月	ずだじこども園保育園園舎新築工事着工
平成24年	3月	保育園園舎竣工
		ずだじこども園の認定許可
		ずだじこども園(保育園)の認可
平成24年	4月	認定こども園 ずだじこども園創設 ずだじ幼稚園

		ずだじこども園保育園
平成25年	12月	クライミング遊具(むしさんみつけ)購入
平成26年	3月	駐車場用地購入(恩地町297、299、47坪)
	3月	園児送迎バス購入
平成27年	4月	子ども・子育て支援新制度(子ども・子育て支援法)により、幼保連携型認定こども園「ずだじこども園」として、教育・保育を行う施設に変更
平成28年	4月	平成26年12月社会福祉法人 青林福社会を設立し平成28年4月そらいろ保育園を開園

学園の組織

理事長	鈴木重道				
理事	建部龍憲	吉澤俊道	野口泰之	建部仁洋	鈴木知子
評議員	鈴木重道	建部龍憲	吉澤俊道	建部仁洋	野口泰之
	鈴木知子	斉藤ひろみ	家近快泉	大庭誠介	薬師寺晋
	細倉ゆずる	磯部二美	富永昌代		
監事	平野國行	大谷昭弘			

幼稚園のスタッフ

園長	鈴木重道		
副園長	鈴木俊徳		
主幹教諭	磯部二美		
保育教諭	26名		
講師	7名		
事務員	鈴木知子他1名	乗務員	寺迫正典
栄養士他	山本有美他3名	用務員	増田ひろ子

子供の健康管理

園医	野口泰之
園歯科医	大庭誠介
園薬剤師	澤井康行

教育目標

明るく たくましく 賢い子 の育成

明るい子(徳育)	挨拶のできる子、コミュニケーション能力のある子 人と人との付き合い、関わりの第一歩 心を伝える 「おはようございます」が言える子にしたい 相手も自分も、気持ちよくなる、挨拶のできる子は 必ず素敵な笑顔がでできます
たくましい子(体育)	心も身体もたくましい子 失敗にも負けず、もう一度挑戦する子にしたい 泥んこ になる事に抵抗無くエネルギーを爆発させて遊べる子 は、何に対してもチャレンジする心が育ちます
賢い子(知育)	なんでだろう? どうしてかな? と考えることができる子 一つの遊びを集中して行い、最後まで遊びきる子は、満 足して次のステップに進むことができます

感性豊かな子（美育）

自然と人との関わりの中で育つ「心」

与えられ、限られた環境の中では作られた感性しか育ちません 原石のような子供たちにこそ、本物の中で感じる心を育てて欲しい

教育方針

顔の数だけ 個性がある

汗をかきながら、園庭を力いっぱい走りまわる子がいます

太陽の下で瞳を輝かせ、元気よくお話をしている子がいます

地面のアリを見つけ、その行列を真剣に追いかける子がいます

幼稚園にはいろいろな子供がいます そんな素晴らしい可能性を秘めている子供たちの二度とない幼児期に、より多くの体験を通してたくさんの事を体得して欲しいと思います

事業計画

事業方針

乳幼児の保育教育には、最近の乳幼児を取り巻く社会環境を十分に考慮し、こども園の乳幼児の保育・教育の果たす使命の認識と実践の推進を図る。教職員の各種研修会に参加し資質の向上を図り、研修事業の充実を行う。同時に園内の施設設備の安全確保と維持管理の充実を行う。

・教育計画

- ①今日の社会状況を考慮し、保護者の子育てを支援し、家庭における子供の育つ環境を充実させるための保護者教育を行う。
*講演会、印刷物を通して、親子教室、父子教室 ---
- ②異年齢交流を通してお年寄り、親子、大人、友達、教師、地域の人々との交流活動を活発に行う。
*畑作業を通して、保護者の保育参加事業、朝市での買物
- ③日本文化を伝承していくための遊びを取り入れ、子供たちに日本文化のすばらしさを伝えていく。
*こま、お手玉、竹馬、折り紙、綾取り---
- ④未就園児教室を開催し、親子で遊ぶ楽しさ、他の親子と交流する楽しさを知り、子育ての楽しさ、人との関わりと重要さを知らせていく。
*親子教室開催、園行事に招待、子育て相談開催 ---
- ⑤教職員の資質向上のために、各種研修会に参加する。
園内研修においては、伝承遊びを通して、同年齢、異年齢との交流を深め、人間関係を学ばせるための研修を行う
- ⑥植物（実習農園）、動物を育てることを通して、自然の厳しさ、優しさ、すばらしさ、命の大切さを知らせてゆく。
*野菜、花の育成、動物の飼育 ----
- ⑦教職員と話し合いを持ち、幅広い人間関係を築き、子供達に幅広い異年齢活動の場を設ける。

・施設設備計画

- ・遊具の充実及び遊具の安全管理を行う。
- ・施設設備の維持・安全管理を行う。
- ・災害から子供たちの命を守るため、毎月避難訓練を実施する。
- ・園舎内外の危険箇所、防犯箇所の点検を実施し、施設設備の再点検を行う。

- ・財務計画
 - ・長期借入金を早めに返済するよう努力する。
- ・管理運営計画
 - ・東海沖地震に備え、備品、家具等の固定、ガラス飛散フィルムの貼付けを順次実施する。
 - ・教職員の事務量軽減のために、IT 化を進めるとともにセキュリティの強化を進めていく。

防災計画

★目的

地震、津波、暴雨風、竜巻等の自然災害に対しての見直しを行い、災害から園児・教職員の人的被害を、また建物の被害を最小限に食い止めることを目的にする。

★園の立地条件

園は海岸より 4 km、芳川沿いに位置する。園の南側には国道 1 号線があり、防波堤代わりとなり津波をくい止める役割を果たすと予想されます。また園の周囲は丈夫なコンクリート壁で囲まれているため津波の被害は一般の建物より少ないと思われる。また芳川は一直線に流れているため川を遡る津波の被害は少ないと思われる。

しかし、自然の計り知れない力との戦いのため、人的被害を少なくするためには気を緩めず対策をしていく必要がある。

★計画

今まで予想できなかった自然現象が、目の前に起こるようになって来ました。災害時、教職員は園児の生命を最大限守ります。保護者の皆さんは各自の生命を守り、災害後落ち着いた時点で迎えをお願いします。

【短期計画】 ー生命を守るための準備ー

- *情報の確保と発信
 - ・最新の連絡メールの導入・情報の発信
 - ・伝言ダイヤル「171」の活用
- *避難計画の見直し
 - *防犯・火災・地震・津波等の訓練を毎月 1 回実施
 - *AED、心肺蘇生法の訓練を年 1 回以上実施
 - *交通安全教育(指導員による)を年 2 回以上実施

【中期計画】 ー災害後の生活維持の準備ー

- *園バス用ナビの導入
 - ・バスの走行位置が通信媒体で見られるようにする。
- *災害後の日用品の補充確保
 - ・食料品、飲料水の確保、寝具他
- *救急用品の補充確保
 - ・日常救急用品（薬等）、タンカ、トイレ他
- *建物の補強・固定と避難経路の確保
 - ・地震に備え、建物の補強をします。
 - ・照明器具のフィルム貼り、家具等の固定

★全てはお金が掛かることですので、ご協力をお願いすることがあります。
ご理解の程、よろしくお願い致します。

